

「若者との対話集会～市長と若者が考えるまちの魅力と将来～」議事録



日 時：平成 26 年 8 月 30 日 13:00～14:30

場 所：旭川市宮下通東 旭川市市民活動交流センターCoCoDe ホール棟

出席者：男性 40名 女性 12名 計 52名

(市長挨拶)

本日は、10,20,30代の多くの皆様方に参加，傍聴いただき，感謝申し上げます。

現在，進行中の「第7次総合計画」がH27年度で期間終了することに伴い，本市では，今年度から2年間かけて，「総合計画」策定の準備を進めている。

計画策定にあたり，現在，色々な立場の市民の方々に構成されている市民検討会議や子育て世代のお母さん方，市役所の若手職員のワーキンググループ等，多方面の意見をいただいているところである。

今日は，将来の旭川や日本を担う若い世代の皆様からの御意見を伺い，総合計画に反映したいと考え，このような機会をつくらせていただいた。



旭川に住んでいる人がこれからも住み続けたいと思う，旭川を出た人がいつか戻りたい

と思う、旅行や観光で行ってみたいと思う、住んでみたいと思うようなまちとしていくためには、どんな課題・魅力があり、どうすべきかということについて、若い皆様方からの色々な視点からの意見をいただきたい。

(事務局)

[スライド説明]

はじめに、本市の人口についてであるが、平成5年と平成25年の人口を年齢階層別に示した人口ピラミッドであるが、平成25年を見ると、下の年齢層の幅が大きくしぼんできている。総人口としては、36万2千人から、34万9千人と4%程度の減少となっているが、本日お集まりの皆様方の年代の前後となる。15～34歳までの人口は、9万6千人から、6万6千人と31%も減少している。



次は、転入・転出といった社会動態を年齢別にみたものである。

棒グラフの赤の網掛けが道内での出入り、青が道外との出入りで、折れ線グラフは、その合計値となっている。全体では、特に、就学、就労のためと思われるが、15歳～34歳の道外への転出が大きくなっている。また、女性では、出産年齢層の中心でもある20～34歳の流出も大きくなっている。

次は、平成25年の転入・転出の状況を地域別にみたものです。

棒グラフで示すゼロより上が「転入」、下が「転出」で、折れ線グラフは、転入と転出の差を示している。地域別にみると、上川管内をはじめ、オホーツク、空知、宗谷などの周辺管内からの人口の流入がみられるが、それ以上に、大都市圏である石狩管内や関東に人口が流出している状況である。

次に、市内の高校卒業者数と進学率、及び学歴別の就職先の割合についてご紹介する。

上のグラフを見ると、本市の高校卒業者数（棒グラフ）は、平成3年をピークとし、少

子化による減少が続いており、平成24年では、ピーク時の半数である、約3千人となっている。一方、大学等の進学率（折れ線グラフ）は、年々、緩やかに上昇を続け、平成24年には41.1%となっていることがわかる。また、下の表は、高校生、短大生、大学生がそれぞれ、卒業後、どの地域に就職したかを示しているが、高校生が、市内就職率62.6%であるのに対し、大学生は、30.4%と、多くが市外へ就職していることがわかる。卒業者数全体が半減し、なおかつ、高学歴化により市内就職率も半減しており、市内の若年層の大幅な減少へと繋がっている。

また、平成25年に行った、市内の高校2年生を対象にした就職希望先に関する調査では、大学進学希望者のうち、73.7%が道内での就職を希望し、短大進学希望者のうち、84.4%が道内での就職を希望したという結果となっている。

このことから、「ずっと居たい」、「戻りたい」を実現するためには、雇用先の確保がキーポイントとなると考えている。

本市は、企業誘致を積極的に進めており、近年、その取組みが実を結んでいる。

平成22年には、全国のコンビニやスーパー向けのパウチ惣菜を製造する「ヤマザキ」を誘致し、200名の雇用を生み出している。

平成24年には、保険募集業務、事故対応業務等を行う「アクサ損害保険」、自動車部品製造の「日信工業」、平成25年には、市場分析等のサービス提供に係るデータ入力を行う「プーリカ」を誘致し、80名の雇用を生み出し、今後も順次拡大する予定と聞いている。

本市では、今後も企業誘致に積極的に取り組んでいく考えでいる。

もう一方で、「行ってみたい」、「住んでみたい」を実現するためには、魅力と情報発信力のアップがキーポイントの一つとなると考える。

住んでいる私たちは、魅力として意識していないかも知れないが、旭川は地域資源の宝庫だと思う。

- ・ 今後30年間の震度6弱以上の地震発生確率が、0.3と全国最小
- ・ 安定した運航が確保されている旭川空港をはじめ、道内各地を結ぶ主要道路、鉄道、都市間バス等、交通・物流の要衝
- ・ 米をはじめとした安全安心な農作物
- ・ 物流拠点であることによる太平洋、日本海、オホーツク海からの新鮮な魚介類
- ・ 充実した医療・福祉施設
- ・ 世界的なブランドとしての旭川家具
- ・ 極上のパウダースノー
- ・ 無数のアウトドア資源

こういった旭川の多くのキラコンテンツをターゲット別に、効果的に情報発信することが重要になる。

また、「人を引きつける魅力的なまちづくり」を更に進めていくため、市では、まちづくりのルールである「まちづくり基本条例」を制定し、この4月1日からスタートした。

この条例では、まちづくりを進める上で、「ひと」「地域」「まち」「広域」と、4つのキーワードが重要としている。

- ・「ひと」がいきいきと活躍し
- ・「地域」で支え合いながら
- ・「まち」の活力向上を目指すとともに
- ・「北北海道」の拠点都市として役割を発揮していく

ことが、旭川のまちづくりに欠かせないものと考えている。

そして、この条例の理念に基づいたまちづくりを具体的に進めていくために、次期総合計画を策定するものである。

私たちが、自然、食、人の温かさ、そのほか、ここに書き切れないくらいの豊かさの中で、その豊かさを実感しながら悠々と暮らせるまちを実現し、その上で、このまちを訪れる全ての人に対し、その豊かさを「おすそわけ」することが、まちの更なる魅力、「まちづくり」につながると考える。説明は、以上。

(市長)

どんな意見でも言っていただきたいと思っている。

(参加者①)

市内の専門学校で家具の作り方を学んでいる。

旭川は、家具の街であり、地場産業として定着している。また、国際コンペを開催する等、力を入れていると思うが、現状は、人手不足、安価な家具におされており、市外はもとより、市内においても売れていないという課題がある。小中学生の頃から、「旭川家具」に対する知見を広め、将来的に地域の活性化につなげたい。

メリットとしては、地場産業に触れることにより、興味生まれ、就職を希望する者、協力者、理解者が得られる。学校の基礎教科と関連づけた学習が、学力アップや人材育成につながる。家具業界以外からの視点が旭川家具の長所・短所の見直しの取組につながるといったものがあげられると考える。

家具づくりでは、現場経験を積み、伝統的な技術等の加工技術を習得することは重要であるが、木材の性質を知ることも同様に大切なことである。日常生活に溶け込んだ木材に注目して、基礎教科と関連づけた学習をすることで、身近なものと文化や技術を紐付けしたり、考察したりする力をつけることができる。

旭川には、様々な家具に関してのプロがおり、そういった者が、講師として活用することができる。また、地場産業を小中学校のカリキュラムに含めるため、施設等新たなハード的な投資は不要である。様々なアイデアを想像できる人材が育成され、それが地場産業の人手不足解消、業界の拡充にもつながると考える。

(市長)

現在、学生として旭川の地場産業としての家具に接しながら、地元の産業を良くしていきたいという思いがひしひしと伝わった。林業、家具、デザイン等、色々な分野と関わり

があり、それらについて、子供達に教え、伝え、身近に感じてもらうことは非常に大切な事であると認識している。学校やそれ以外の学習の機会を通じて、子供達に地元の産業に接することができる、感じる可以增加する機会を増やすことが、人材育成の第一歩となるものと感じており、今後の参考としたい。

(参加者②)



市内でデザイン会社に勤めている。私は、今は無くなってしまった東海大学への進学とともに旭川に引っ越してきた。身近にデザイン等を学べる環境に無い田舎では、「デザイナーになりたい。」「ものを造り出したい。」という発想が生まれてくることがなかなか無い。

私は、ある作品に凄い衝撃を受けたことがきっかけとなり、最も近くにあった東海大学に進学することを決めたが、その大学も現在は無くなり、ものづくり大学設立の動きもあるが、「家具のまち旭川」で家具を学べる場所が一つ無くなってしまったことは、大きな損失である。地場産業である家具づくりを支える人材育成が必要な中で、市長としてはどのような動きが必要で、どのように考えているかお聞かせ願いたい。

(市長)

東海大学が無くなったことは非常に残念であり、母校である方にとってはなおさらのことだと感じている。大学の経営が少子化の波により厳しくなっており、東海大学においても旭川を含め、全国で閉校が進んでいる。市内で高等教育機関が一つ減ることにより、それに関連した産業の衰退、学ぶために集まってくる若者達の減少につながる可能性があり、まちの活力が失われることが懸念される。今後、少子化が進む中においても35万都市である旭川において、しっかりとした教育機関が必要と感じている。

ものづくり大学を設立する運動も把握しており、市においても、ものづくりに特化したものではないが、市立大学の設立について、大学関係者、経済界、教育関係者等を含め、まもなく組織を立ち上げ、検討を進めていくところである。

その会議は、市立大学設立のメリット、デメリットを専門的見地から、議論を進めるものである。私自身もその結果を受けて、ものづくり、デザイン等、旭川に必要な学科、特色等を考えていきたいと思っている。

(参加者②)

最後に一つお聞きしたいが、若者にどんな分野を学んでもらいたいと考えているか。

(市長)

それぞれの興味、得意分野があると思うので、そこに向かって全力で学んで欲しいと思っている。現在も小中学校で、旭川の歴史、特徴等に関する学習を行っているが、不十

分な面もあるのかも知れない。たくさんの人に旭川をわかってもらい、好きになってもらい、その上でいい発想ができるような流れにするための機会を提供していかなければと思っている。

(参加者③)

もともと名寄出身で、旭川に就職で引っ越してきた。

近年、海外からの観光客が多くなってきているが、それらは旭山動物園を目的としている人がほとんどであり、その後は他の地域に移動してしまっていると思われる。名寄では、展望台がとても人気で、一番星が綺麗に見えると言われている。先日、旭川の友達が名寄に訪れた際にも展望台が話題になったが、旭川に来て日が浅い私は、どこに展望台があるかわからないが、自然に触れる場所を作ること一つの魅力アップにつながると思う。

海外客、家族連れを引きつけるためには、キャンプ場や宿泊施設と併せたものを造れば効果的なのではないか。

(市長)

観光スポットをより多く作ったり、掘り起こしたりすることは重要であり、さらに周遊を促すための観光ルートの構築も一体となって取り組む必要があると考える。

旭川空港には、台湾、中国、韓国からの国際便が就航しており、まちなかやホテルにおいてもそういった国々からの観光客を多く目にする状況である。



市内には、サンタプレゼントパークのニコラスタワーという展望台があり、夏の間、オープンしている。また、現在、老朽化が著しい市庁舎を建替等含めてどうするかを検討しているが、その最上階に展望台、展望レストランなどがあれば、大雪山連峰、旭岳が綺麗に見え、観光スポットの一つにもなり得るのではないかと考える。

(参加者④)

私は、もともと、関東の美術大学を卒業して、関東でデザインの仕事をして、木工を学ぶため、今年の4月から旭川に住み始めている。

旭川は、「家具のまち」であることがきっかけでこちらに移住したが、「ものづくりのまち」としてのブランド力はもっと向上させることができるのではないかと考えている。

住んでみて、「家具の産地」としての強い個性を感じることはほとんど無い。

東海大学というデザイン教育機関がなくなり、旭川で生まれたクリエイティブな若者は、他県に行かざるを得ない状況となっている。

また、他県からの若い10代の学生の流入も無くなってしまった。その理由としては、大学そのものが無くなったということと、クリエイティブなデザイナーを引きつけるブランド価値が旭川には無いことが挙げられる。そのことから、最初の発言者にもあった、「幼少

期からのものづくりに係る教育を行う」ことは、将来を考える上でも重要と考える。

「ものづくりのまち旭川」というブランド価値をあげることが、旭川の魅力を引き伸ばすことにつながる。

具体的には、大規模で開かれたデザインミュージアムが必要と考える。

青森県には市中心部の商店街の数区画の空き地を活用して建設された十和田市現代美術館がある。規模は中規模程度であるが、美術館という建築物単体の考え方ではなく、周辺の空き地、店舗等にもアート作品を置いて周辺も含めたアートな空間を演出している。また、ソフト的にも、周辺商店街とコラボレーションして、定期的に地域のコミュニティ施設という役割を果たすアートの企画展を実施したり、ワークショップを実施したりしている。美術館というものを通して、地域のコミュニティを強固にしたり、魅力的にしたりすることができるのではないかと思う。現在では、十和田というまちの「クリエイティブ」という価値が上がり、6年間で100万人の来場者が訪れるほどの成功を収めている。

旭川は、もともと、ものを作ることができる場所であることから、そういった取組を参考にしながら、デザインの価値を上げることにより、より魅力的なまちになるのではないかと考える。

(市長)

十和田市現代美術館については、研究させていただく。ものづくりを様々な手法や取組によりさらに魅力的なものに伸ばしていくことは、非常にいいと感じた。

旭川には、道立美術館、三浦綾子文学館、井上靖記念館、彫刻美術館があるが、今聞いたのは、既存の施設とは少し違った視点からの美術館であると感じた。

デザインもそうであるが、アニメーションについては、日本のレベルが高く、世界中から学びに来ているとの話も耳にしており、アニメーションについての可能性についても考えている。

デザインについても、これから旭川が伸びていく上で、一つの大きなキーワードになるのではないかと考えているので、是非、今の意見は参考にさせていただく。

(参加者④)

旭川には、世界的な家具のコレクションとして名高い「織田コレクション」があるが、収蔵場所の確保等を含めて、その価値を守っていくような取組をお願いしたい。

(市長)

織田コレクションは、現在、蔵田夢で展示中であるが、非常に素晴らしいと思う。

今年、国際家具デザインフェア(IFDA)が実施されているが、世界中から沢山の作品が展示されている。特に、若手家具デザイナーの登竜門的な位置付けとなっている。イベントとしては、IFDAをしっかりと伸ばしていくとともに、他に新たなイベントを企画することも考えていく。素晴らしい素材はあるので、それらを生かしていくことを検討したい。

(参加者⑤)

これまで、デザインや家具といったジャンルの話が多くそれらに興味がある方々が多い

と感じました。私は、市内でデザイン関係の仕事をしている。

今回は、こういった雰囲気の中で、車座で意見交換を行っているので、本日参加されている皆さんで共通して話ができる内容を提案したい。

今回は、課題と魅力と将来という3つのキーポイントを中心に話をする趣旨だと思っている中で、まち、地域の課題ということで問題提起したいと思う。

現在、北彩都の工事が進んでおり、まちの顔がずいぶん変わったという印象があるが、それに対して、時代は、高齢者社会となり、若者が少なくなっている。都市開発と人口減少のバランスが旭川の場合、まだ、とれていないと感じる。この点についての市の考え方をお聞かせ願いたい。また、家具や木工等学習に関連する部分では、同じ志や色々な考えを持つ人達が交流できる場所が必要ではないかと考える。また、中心部は、若者(特に単身)が住みやすいまちとしてほしい。安いアパートに住み、車も使いやすいために、中心部に駐車場を整備したらどうか。これらの点についても、市長の考えを聞かせていただきたい。

また、参加している皆さんにもまちに住むとしたらどういったことが課題、障害となっているかなどの意見を聞きたい。

(市長)

人口減少の減少率をできるだけ少なくするため、子育て支援や地域の雇用対策等をしっかりとやらなくてはならないと考えているが、人口を増加させるということはそう簡単なことではない。都市をコンパクトにしていく、効率的な都市にしていくことは、旭川においても非常に大切である。北彩都を含めた駅を中心とした中心街に住んでもらい、まちの顔として役割を担っていくまちづくりをしていくことは重要な方向性と考えている。高齢者が郊外で除雪をし、寒い思いをするよりも、中心部のマンション等で、近くに病院、施設があったり、食事の宅配があったりといったようなニーズは確実に増えてくると思われ、環境の整備を行政も一緒になり、作り上げる必要がある。

若者については、例えば、子育て世代等は周辺地域に、一人暮らし等については、中心部へとそのニーズに合った環境整備等、誘導策を検討する。

現状、市内中心部に無料駐車場はない。広く市民の方々から、中心部でのショッピングの時間を気にすることなく楽しむために、無料駐車場が必要との声を聞いている。

中心部での市営無料駐車場建設にあたっては、民業圧迫、自宅駐車場として使用する等不適切な利用についての懸念があるため、35万人規模の旭川としては難しい。

また、現在、駅前では来年3月オープンを目指し、イオンを建設中であり、併せて900台規模の駐車場ができる予定である。無料等の措置が図られるかは不明であるが、人の動き等については現状との変化が見られるようになると思う。

(参加者⑥)

例えば、CoCoDe、蔵囲夢、ぶんか小屋といった中心部の文化施設の利用者の増加、賑わいの創出を促すために、そこに限って駐車場整備してはどうか。イオンと提携してそういった施設の利用者について無料等の措置を講じてはどうか。

(市長)

その考えについては、十分、可能性があると思うので、検討させていただく。

(参加者⑦)

旭川出身で、現在市内で会社員をしている。旭川は非常に住みやすいと思っている。

冒頭の説明で、「高学歴化が進んでいるため、市外へ就職先を求めて出て行ってしまおう。」とあったが、高学歴化が原因となり就職先を求めて出て行ってしまおうのか、高学歴化、ブランド化が進みすぎていて居続けることが難しいのか疑問に思っている。

市内の大学の卒業生の1割程度しか、地元で就職していないのが現状である。

そこで、「旭川に就職して居続けられ

る仕組み」、「若い世代が出て行かないよう、若者が求めるものをつくる仕組み」について聞きたい。

また、魅力を作るのは、「まち」や「地域」でなく、「ひと」だと思う。「ひと」と「ひと」がどういう風につながることができるかということが、これからの課題になっていくと思う。旭川は規模的にとてもいい街であり、電話1本で幅広いジャンルの魅力ある、技術力のある「ひと」とコミュニケーションをとることができる。職人さん等と直接話を聞いて、素朴な疑問をぶつけることができる。札幌等ではそうはいかない。こういう、とても大事な環境をどう残すかという議論が行われていない。

その延長線上には、ものづくり大学や高等技術専門学院があるのかと思うが、そういう仲間、環境をこの先どう作っていくのか。今の状況では、10年20年先、こういった仲間が仕事ができているかイメージできない。

そういったことを踏まえて、10年後20年後、人と人のつながりをどう将来に繋いでいくかという点で意見を伺いたい。

(市長)

非常に難しい課題だと思うが、仲間、人材の確保をどうするかということは、旭川のあらゆる魅力を維持、造り出すために重要であると考えている。私は現在45歳であり、高校卒業からまもなく30年経とうとしている。自分の高校も9割以上が大学進学していたが、卒業生450人に対し、市内に残ったのはそのうち1割程度であった。ほとんどが東京をはじめとする関東エリアや海外等へ飛び立って行っており、先ほどのスライドであったような現象が出てきているのかもしれない。

しかしながら、私の10歳ほど上の先輩では、旭川に残っている人が多い。地元に残った方々は自営業をしている方が多い。かつては、小さな会社や商店といったものが地域の中



で役割やニーズがあり、事業として成り立っていたものが、大企業の参入により、継続することが難しくなってきたのかもしれない。

これからは、地方の小さな企業の強みを伸ばし、大都市、大企業に対抗又は共存していく必要があることから、ものづくり等色々な業種においてオリジナリティ、クリエイティブな考えを持った人材を蓄積できるよう、大学に対して、または企業に対して様々な仕掛けを行っていかねばならない。これは、これからのまちづくり、人を引きつけていくために非常に重要なテーマであることから、是非、本日参加されている皆さんに御意見を伺いたい。

(参加者⑧)

私は、市内の病院で作業療法士として働いている。周辺の職能団体等においても仕事をしており、今後についても職域を拡げたい、職の知名度を上げたいと考えている。

リハビリテーションの仕事をしているが、今日、ここに来ているような家具関係やデザイン関係の方々ともつながりを持って仕事をしてみたいと思う。しかし、そういう機会が無い状況である。

市においては、そういった異業種をつなぐを機能的に作るモデル事業を実施し、手法を確立し、普及を進めるような施策を図っていただきたい。

色々な新しいワクワクすることができるのではないかと思う。モデルケースとして作れば、周りにも発信することができ、最初の一步が大事だということは他の事例でも感じる。

福祉分野においては、旭川は病院が多く、病床数も多く、施設も充実しており、一人当たりの病床数は札幌に匹敵するほどだと思うが、福祉に関しては、仕掛けが足りないと感じている。近隣では、下川町で厚労省のモデルケースを行っており、旭川においても新しい仕組みを作って行かなければならない。

我々、若者が原動力となり、考えていくことに対し、市がリーダーシップを取って行って欲しい。

(市長)

医療・福祉については、旭川は優位である部分であり、そういった部分を更に伸ばしていくことが魅力的な地域につながっていくことだと思う。今後、確実に高齢化が進んでいくことから、医療・福祉の充実を図り、若者だけでなく、リタイヤした熟年世代等にとっても、「安心して生活できるまち」という魅力を広くアピールすることで人を呼び込むことにもつながると考えている。

そのためにも、直接、医療・福祉の現場にいる皆様方と現状の課題、魅力を伸ばすヒント等の意見交換等していきたい。

(参加者⑨)

高校時代から人と関わる活動をしてきており、大学入学後の現在も、学生自主組織「はしっくす」の活動を行っている。その活動を通して、市内に新たな大学が必要であるという意識が強くなった。

そこで活動を共にしている中高生達は、思った以上にとても優秀であると感じている。

その一人一人が、大学生の自分よりも興味深く、クリエイティブな発想で旭川のことを考えており、とても関心している。そのような人材の多くが、旭川が好きで残りたいにも関わらず、進学や就職のため、市外や道外へでていってしまうことをとても残念に思う。

そのような優秀な人材を旭川に残すため、また、色々な考えを持った外部からの人材を引き寄せるために、大学設立することは手段の大きな一つとして有効であると考えます。また、旭川は札幌に次ぐ北海道第2の都市であり、北海道の中心に位置しており、空港もあり、地震も少ないといったように潜在的な魅力は多数あると感じている。

しかしながら、最近も、道外出身の学生と話したときに「旭川市」なのか「旭山市」なのか、「旭川医大は私大なのか」といったように、旭川のことを知らない道外の若者はとても多い。是非、人材の呼び込みと魅力度、知名度のアップのために大学の設立を検討していただきたい。

(市長)

日頃から、はしっくすの活動を頑張っていたいてありがとうございます。

大学設立の件については、先ほどから何人かの方から話が出ていたが、非常に重要なテーマだと感じている。そのことにより、街の機能、地位が上がっていくことにもつながるといった今の意見も踏まえながら、色々と検討していきたいと思う。

(参加者⑩)

西神楽で農業を営んでいる。今まで話があった各産業の施策の前に、生活の基盤となる福祉、医療に係る施策を進めて欲しい。費用等は安い方がありがたい。東神楽は子供の医療費をかなり優遇しているというような話を聞くと、子育て世代にとっては、旭川より東神楽の方が住みやすいと感じてしまう。若い世代が日本一住みやすいと思えるようなまちなにするような施策を進めてはどうか。

(市長)

御意見ありがとうございます。お話しいただいた医療費の件についても、前向きに検討していきたいと思う。

(参加者⑪)

市内で建設会社に勤めている。

旭川は目立った特産物は無いと感じている。旭山動物園は頑張っているが、ラーメン等はあるが今ひとつインパクトが足りない。駅の方を中心に開発を進めているが、飛行機で訪れ、レンタカーを利用する観光客が最近多くなっており、観光地がわかりやすいような表示、標識を考えると魅力向上につながると思う。



(市長)

観光も大事な魅力・資源の一つであることからできることを進めていく。

(参加者⑫)

市内で家具の技術を学んでいる。私はこれから結婚し子供も持ちたいと思っており、もっともっと結婚しやすいような、子育てしやすいような環境の整備をお願いしたい。

それには自分自身の努力も必要であることから、本日ここに参加している皆さんと、これからもこういう場を使って議論していけたらと感じている。

(市長)

御意見、ありがとうございます。

(参加者⑬)

市内で建築会社に勤めている。税金の負担をなるべく減らしていただきたい。

(市長)

市民の皆さんにとって大事なことであるので引き続き適切に進めたい。

(参加者⑭)

市内の建築会社に勤めている。

私には3歳の子供がおり、これから保育園に通わせたいと思っているところであるが、保育園や幼稚園への通園料が家計に影響を及ぼすことから、今よりもさらに補助するような施策をお願いしたい。もっと手軽に教育等を受けさせることができるような環境整備に力を入れていただきたい。

(市長)

子育て環境の充実は大切なことだと考えており、財源が限られている中ではあるが、皆さんが暮らしやすくなるような税金の使い方をしていく。

(参加者⑮)

大学は札幌であったが、今年から就職のため旭川に戻った。

車だけでなく、公共交通機関の充実を図ることにより、移動しやすくなると感じている。

将来に渡り、実質的に利用率が上がるようなものとするためには、色々な研究、検討が必要であると感じている。

(市長)

ありがとうございます。色々と研究を進めたいと思う。

(参加者⑯)

今年から就職のため旭川で暮らし始めた。旭川のまちの構造は車が無いと不便なものとなっているが、車購入費の補助等、旭川独自の施策を検討してもよいのではないかと。

(市長)

御意見ありがとうございます。車に限らず旭川独自の交通施策を検討していきたい。

(参加者⑰)

旭川が国のモデルケースの採択を受けていることから、安心できる医療・福祉環境の

充実により高齢者を呼び込んでいくとされているが、これから市として多くの税金を必要とするような人達が増えて、それを支える若者が減っていく事に対し不安を感じている。

若者の負担増等にはならないような仕組みの検討も併せて行っていただきたい。

(市長)

現在は規制があり難しいが、医療・福祉環境の整っていない地域の高齢者にサービスの提供し、かかる費用は住民票のある自治体が負担するようなシステムが機能するように、これから国との協議を進めていくことになる。

(参加者⑱)

札幌の大学を卒業し、就職のため、旭川に戻ってきた。

人口減少について興味がある。2年前、全国の政令指定都市の1000人の若者を対象にアンケート調査を行った話を聞いたことがある。そこでは、人口を増やすにはどうしたらよいかということに対し、「仕事(雇用)」と「何か楽しいこと」との回答が多かった。

展望レストランとか、若者が単純に楽しく集まれるような仕掛けを作ることも重要ではないかと思う。

(市長)

ありがとうございます。是非参考にさせていただく。

(参加者⑲)

介護施設で介護福祉士として働いている。現在、有料老人ホームとか、20~30床の高齢者施設が市内に200件程度あるかと思う。

私が知っている限りで、今後、年内に3件は新たにオープンするという状況であり、まさに、乱立しているといった言葉が適切だと思うが、雇われている身としては、今後20~30年度の人口減少を考えると、ニーズに対する若者の労働力が不足し、事業継続が困難になると想定される。その時は、自分たちがレストランにあうことも考えられ、かといって年長的に再就職も難しいとなるような不安がある。そういった将来を見越した検討も行っていただきたい。

(市長)

ありがとうございます。安心して生活していくことができるようにその点も重要であると考えている。

(参加者⑳)

熊本県のようにゆるキャラでせめてはどうか

(市長)

あさっぴーもがんばります。



(参加者⑳)

新しいものを作っていくという話が多く出ていたが、古いものを残すことをもっと大切にしていかなければならないと考えている。技術のこともそうだが、買い物公園の7条通のギャラリーの減少も目立つので、そこも観光名所として保存、アピールすることも検討したい。

(市長)

御意見ありがとうございます。この建物(CoCoDe)も古いものを活用している。

(参加者㉑)

私は洋服が好きであるが、目当てのショップ等が無いため、札幌まで行かなければならない。アウトレットモールの整備など、ニーズに合った面白い仕掛けを作って、買い物客の市内への取り込みを図り、お金も市内で回るようにしてはどうか。

(市長)

ありがとうございます。参考にさせていただく。

(参加者㉒)

買い物公園は、イベント実施中は非常に盛り上がっているが、イベントの無いときでも盛り上がる事ができる仕組みを作ればと感じている。

(市長)

ありがとうございます。それは私も感じているところである。

(参加者㉓)

私は教材会社に勤めており、学校を回っている中で、教材、ICT等の需要が少ないと感じている。旭川は、北海道の中で学力的には最低レベルであることから、ICT機器等、設備の充実を図っていくことが必要であると考えている。

(市長)

ありがとうございます。今後の参考にさせていただく。

(参加者㉔)

市内の大学で英語を勉強している。最近、海外からの観光客が多く見られるようになってきたことから、英語や中国語等の外国語の対応によるホスピタリティの向上を図り、旭川を訪れる観光客にとってより楽しみやすい環境の提供が必要。

また、本市を訪れる外国からの方々と小中学生等を結びつけることができれば、外国語学習の動機付けになると思う。

(市長)

御意見ありがとうございます。



(参加者②⑥)

色々な話を聞くことができ非常に良かったと思う。

(市長)

ありがとうございます。

(参加者②⑦)

スノーボードショップで働いている。旭川からオリンピックや世界で活躍していく選手を輩出していきたいと考えている。夏でもスノーボードができる施設の整備等の協力をお願いしたい。

(市長)

御意見ありがとうございます。

(参加者②⑧)

旭川の最大の魅力は、良質な雪が降るとのことだと思う。昔は、市内のたくさんのスキー場にハーフパイプの設備が整っており、それを魅力と感じ、道外から沢山の人が移り住んできていたが、現在は施設が無いため、そういった人達もいなくなってきた。

かつてのようにスキー場と施設が整備されれば、その魅力でまた人が集まり、定住する人も増え、人口増にも寄与できるのではないかと考えることから、市での協力、対策を検討したい。

(市長)

竹内智香さんもオリンピックで銀メダルをとった。頑張りたいと思っている。

(参加者②⑨)

本日はこのような時間を企画していただきありがとうございました。

皆さん、様々な御意見があってとても有意義な時間だと感じている。これからの旭川を良くするためには、こういった協働といった形で年齢層、職種を問わず色々な人達が意見を交換していくことが大事であると思う。

(市長)

ありがとうございます。

(事務局)

多数のご出席をいただき、時間が大変短い中、お集まりいただいた皆様の御意見を伺うことができた。ここで、最後に市長よりご挨拶をお願いする。

(市長)

本日は参加いただいた人数も多く、もっとゆっくりと話をしたかった方々もおられたかと思う。後半は急ぎ足に御意見を伺う形となってしまう申し訳なく感じている。

また、貴重な色々な話を聞かせていただきありがたく思う。旭川のことを本当に真剣に考えてくれている若い人達が、こんなにたくさんいるということを感じることができた。今後も自信を持ってこのまちをもっともっと良くしていくよう頑張っていかなければならないと改めて思っている。

皆さんにおいては、また色々な機会で、その思いを市役所等に伝えていただきたい。一緒に地域、まちを良くしていきたいという思いは今後も忘れずに、今後ご協力をお願いしたいと思っている。

まちをつくるのは、一人一人の「人」であり、一人一人の考えや発想がそのまちを良いまちにしていく上で、大変重要であると考えている。旭川にはこんなに素晴らしい人達がたくさんいるということは、皆さんも自信を持っていただき、今後も旭川で活躍していただければと思う。今後、手紙でもメールでも構わないので、色々な機会にまた御意見等いただければと思っている。今日は、最後までお付き合いいただきどうもありがとうございました。

